

概

況

項目	内容
1. 概況	...
2. 詳細説明	...
3. 結論	...

概 況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成9年中における東京都中央卸売市場花き部の開市日数は、北足立市場が308日、大田市場が309日、板橋市場が268日、葛西市場が308日で、それぞれ前年より2日増、2日減、5日減、3日減となった。

総取扱数量は、部類によって単位が違うため算出してないが、総取扱金額は823億2448万5千円で、前年比5.7% (44億7104万4千円) の増加となった。また1日当たりの取扱金額は2億7295万3千円で、前年比6.4% (1635万8千円) の増加という実績を示した。

(2) 部別取扱高

- ①切花 総取扱数量は8億2237万本で前年比2.3% (1865万5千本) 増、総取扱金額は528億4027万円で前年比5.0% (23億2399万2千円) 増であった。
- ②切葉 総取扱数量は6048万7千枚で前年比2.9% (171万8千枚) 増、総取扱金額は17億7226万7千円で前年比0.3% (523万7千円) 増であった。
- ③切枝 総取扱数量は1694万8千束で前年比13.9% (206万8千束) 増、総取扱金額は38億8584万9千円で前年比6.3% (2億3107万5千円) 増であった。
- ④鉢花 総取扱数量は2736万鉢で前年比8.1% (206万1千鉢) 増、総取扱金額は87億6263万円で前年比7.0% (5億7235万円) 増であった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は198万8千鉢で前年比5.1% (10万7千鉢) 減、総取扱金額は47億1456万6千円で前年比1.9% (8801万1千円) 増であった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は942万4千鉢で前年比9.7% (83万4千鉢) 増、総取扱金額は45億7949万5千円で前年比0.7% (3005万7千円) 減であった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は334万2千鉢で前年比12.3% (36万6千鉢) 増、総取扱金額は19億1665万7千円で前年比13.5% (2億2818万6千円) 増であった。
- ⑧苗物 総取扱数量は229万2千箱で26.2% (47万6千箱) 増、総取扱金額は33億4136万8千円前年比で31.8% (8億682万1千円) 増であった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は39万1千箱で前年比58.4% (54万8千箱) 減、総取扱金額は5億1138万3千円で前年比9.7% (4542万9千円) 増であった。

部別平均単価の推移 (過去3年分)

(単位: 円、%)

	切花	切葉	切枝	鉢花	らん鉢	観葉植物	観賞樹	苗物	その他花き
7年平均単価	65	28	230	346	2,296	560	565	1,297	1,886
8年平均単価	63	30	240	324	2,208	537	567	1,395	496
9年平均単価	64	29	229	320	2,371	573	573	1,458	1,307
9年前年対比	101.6	96.7	95.4	98.8	107.4	101.1	104.5	104.5	263.5

(3) 市場別取扱高

①北足立市場

総取扱金額は133億7351万4千円で、前年比0.6% (7864万4千円) と微増だった。

部別では、その他花きが数量で前年比24.6% (1万3千箱) と大幅な増加が見られたが、金額は3.5% (170万6千円) 減少した。また、観葉植物、苗物の数量がそれぞれ4.4% (5万1千鉢)、9.9% (2万2千箱) と伸びているにもかかわらず、金額が4.7% (2637万2千円)、3.3% (1045万7千円) と減少した。逆に、切花、鉢花は数量が2.6% (367万5千本)、1.3% (5万6千鉢) 減少したが、金額が1.0% (9054万6千円)、0.3% (465万6千円) と若干増加した。観賞樹は数量が1.1% (6千鉢) 増えたが、金額はほぼ横ばいであった。しかし、切葉、切枝、らん鉢はそれぞれ数量が3.0% (31万5千枚)、4.7% (19万1千束)、7.0% (3万1千鉢)、金額が2.4% (751万9千円)、1.2% (839万2千円)、0.9% (711万3千円) と軒並み減少した。

②大田市場

総取扱金額は456億2632万7千円で、前年比7.9% (33億5554万8千円) の増加となった。

部別では、苗物が最も大きく増加しており、数量が前年比31.1% (36万9千箱)、金額が37.9% (6億1143万4千円) の伸び率を示している。また、観賞樹が数量で16.2% (29万8千鉢)、金額で18.0% (1億8412万3千円)、切枝が数量で13.0% (91万3千束)、金額で10.8% (2億1086万6千円)、その他花きが数量で9.0% (6千箱)、金額で27.5% (7065万1千円) とそれぞれ大きく増加した。さらに、切花が数量で5.4% (2142万4千本)、金額で7.2% (18億6302万6千円)、切葉が数量で4.8% (136万3千枚)、金額が1.2% (1105万2千円)、鉢花が数量で6.8% (94万9千鉢)、金額で8.5% (3億8319万1千円) とそれぞれ増加した。しかし、観葉植物が数量で9.3% (54万5千鉢) 増えたものの、金額が1.4% (4474万1千円) 減少した。また、らん鉢も数量が3.1% (3万6千鉢) 減、金額は3.8% (1億594万4千円) 増であった。

③板橋市場

総取扱金額は126億8087万8千円で、前年比2.0% (2億5021万1千円) の増加となった。

部別では、鉢花が数量で前年比27.8% (50万2千鉢)、金額で13.2% (7123万1千円) と大幅な伸びを見せた。また、らん鉢で数量が1.5% (2千鉢)、金額が10.7% (3284万8千円) の増加、観賞樹も数量が1.5% (2千鉢)、金額が5.4% (308万6千円) の増加となった。しかし、切葉の数量が1.9% (21万8千枚) 増加したにもかかわらず、金額が3.3% (970万円) 減少した。同様に観葉植物も数量が2.3% (8千鉢) 増加したものの、金額が2.6% (503万円) 減少した。また、逆に切花は数量が1.5% (244万5千本) 減少したものの、金額が1.6% (1億6126万9千円) 増加した。切枝は数量で12.8% (32万3千束)、金額で0.4% (255万1千円) それぞれ減少し、その他花きでは数量が84.3% (5万3千箱)、金額でも16.5% (1082万1千円) と大きく減少した。

④葛西市場

総取扱金額は106億4376万6千円で、前年比8.0% (7億8664万円) の増加となった。

部別では、切枝が数量で前年比128.5% (166万9千束)、金額で

21.5% (7115万1千円) の大幅な増加となった。また、苗物で数量が23.3% (8万箱)、金額が28.2% (1億5068万4千円) 増と大きく伸び、観賞樹で数量が11.5% (6万鉢)、金額が13.4% (4125万7千円) 増、切葉で数量と金額がそれぞれ5.2% (45万2千枚、1140万3千円) 増、切花も数量で3.4% (335万1千枚)、金額で7.6% (4億0915万1千円) 増となった。しかし、らん鉢は数量が11.1% (4万2千鉢)、金額が6.0% (4366万8千円) それぞれ減少し、その他花きは数量で68.0% (51万4千箱)、金額で13.3% (1269万5千円) と大きく減少した。

(4) 卸売業者別取扱高

①(株)第一花き

総取扱金額は101億278万8千円で、昨年とほぼ横ばいであった。

部類別では、その他花きが数量は前年比10.7% (4千箱) と伸びたものの、金額は5.4% (224万6千円) 減となった。観葉植物も同様に数量は3.8% (2万3千鉢) 増となったが、金額は6.1% (1710万3千円) 減となった。逆に苗物は数量が3.2% (5千箱) 減であったが、金額が9.9% (2024万1千円) 増となった。また、切花も数量は1.0% (114万3千本) 減だったが、金額は1.6% (1億1288万4千円) 増であった。一方、切葉、切枝、らん鉢、観賞樹は、数量でもそれぞれ1.6% (12万4千枚)、7.0% (18万8千束)、14.8% (3万6千鉢)、7.7% (2万4千鉢)、金額でもそれぞれ3.2% (753万6千円)、1.3% (632万円)、9.4% (4667万6千円)、5.5% (1056万1千円) 減少となった。なお、鉢花は数量が昨年とほぼ同数、金額が1.0% (921万5千円) と若干減となった。

②(株)東京花き

総取扱金額は32億7072万6千円で、前年比1.4% (4517万8千円) 増であった。

部類別では、その他花きが数量で前年比49.6% (9千箱) と大幅な伸びが見られ、金額で7.8% (54万円) 増加した。また観賞樹、苗物でも数量が14.3% (3万鉢)、10.3% (8千箱) と二桁増となり、金額も9.3% (1028万1千円)、13.4% (1458万3千円) と増加した。また、らん鉢は数量が2.4% (5千鉢)、金額が12.0% (3956万3千円) の増加となった。しかし、観葉植物の数量が5.1% (2万8千鉢) の増加だったにもかかわらず、金額が3.3% (926万9千円) 減少し、鉢花は数量が3.4% (5万7千鉢) 減少したものの、金額は2.6% (1387万2千円) 増加した。また、切花は数量が7.9% (253万2千本)、金額が1.4% (2233万8千円) 減少した。切葉は数量が7.0% (19万1千枚) 減少したが、金額は横ばい、切枝は数量が横ばいだったが、金額が1.2% (207万2千円) 減少した。

③(株)大田花き

総取扱金額は249億1313万6千円で前年比5.9% (13億9519万4千円) 増加となった。

部類別では、観賞樹と苗物がそれぞれ数量で前年比20.9% (2万8千鉢)、20.4% (3万箱)、金額で15.8% (1752万7千円)、21.8% (4212万8千円) と大幅な増加となった。また、観葉植物、切枝でもそれぞれ数量が10.2% (6万9千鉢)、10.5% (47万5千束) の二桁増、金額が3.1% (920万2千円)、4.0% (4983万3千円) の増加となった。そのほか、切花、切葉、鉢花、らん鉢でもそれぞれ数量で3.9% (1147万9千本)、4.7% (89万9千枚)、6.4% (14万3千鉢)、1.9% (5千鉢) の増加、金額で5.8% (11億1899万6千円)、0.7% (455万4千円)、5.9%

(4896万7千円)、5.5% (4430万7千円) の増加となった。一方、その他花きは数量で5.0% (2千箱) の減少となったが、金額は5.4% (835万7千円) 増加した。

④(株)フラワーオークションジャパン

総取扱金額は207億1319万1千円で、前年比10.5% (19億6035万4千円) の増加となった。

部類別では、切枝、観賞樹、苗物、その他花きが好調で、数量は前年比17.7% (43万8千束)、15.8% (27万鉢)、32.6% (33万9千箱)、21.2% (8千箱) といずれも二桁の伸びを見せ、金額も17.6% (1億2103万3千円)、18.3% (1億6659万6千円)、40.1% (5億6930万7千円)、7.1% (1097万1千円) と大幅に増加した。また、切花も数量で9.4% (994万6千本)、金額で11.1% (7億4403万円) 増加したほか、切葉、鉢花でも数量で5.0% (46万5千枚)、6.9% (80万6千鉢)、金額で2.3% (649万8千円)、9.1% (3億3422万5千円) 増加した。しかし、らん鉢の数量が4.3% (4万鉢) 減少したものの、金額は3.1% (6163万7千円) 増加し、逆に観葉植物の数量が9.1% (47万6千鉢) 増加したにもかかわらず、金額が1.8% (5394万3千円) 減少した。

⑤(株)東日本花き

総取扱金額は72億3044万6千円で、前年比1.3% (9447万8千円) の増加となった。

部類別では、鉢花が最も大きな増加率を見せ、数量で前年比27.7% (49万9千鉢)、金額で13.3% (7129万4千円) であった。また、観賞樹、苗物も数量でそれぞれ2.6% (2千鉢)、6.6% (4千箱)、金額で5.2% (293万円)、13.2% (979万7千円) の増加となった。しかし、切葉、切枝、観葉植物はそれぞれ数量が0.8% (4万9千枚)、19.7% (31万束)、2.4% (9千鉢) と増加したにもかかわらず、金額は5.8% (949万1千円)、5.1% (1911万2千円)、2.7% (504万円) とそれぞれ減少した。逆に、切花とらん鉢は数量が2.2% (196万2千本)、2.1% (2千鉢) と減少したが、金額は20.5% (9億3662万2千円)、6.4% (1523万円) 増加した。その他花きは数量で28.0% (1千箱)、金額で28.7% (775万1千円) 減少した。

⑥(株)板橋花き

総取扱金額は54億5043万2千円で、前年比2.9% (1億5573万3千円) の増加となった。

部類別では、らん鉢と観賞樹が好調で、数量が前年比30.2% (4千鉢)、40.0% (298鉢)、金額が25.2% (1761万8千円)、24.2% (15万7千円) とそれぞれ大きく伸びた。また、切葉は数量が3.2% (16万9千枚) 増、金額は昨年とほぼ横ばい、切花は数量が0.6% (48万3千枚) の微減、金額は2.6% (1億2464万8千円) の増加であった。一方、切枝、観葉植物、苗物の数量はそれぞれ66.0% (63万3千束)、37.6% (367鉢)、85.4% (35箱) と大きく落ち込んだが、金額はそれぞれ5.0% (1656万2千円)、9.1% (9354円)、77.0% (8万2千円) 増加した。逆に鉢花は数量が43.3% (3千鉢) 増加したものの、金額は4.6% (6万3千円) 減少した。また、その他花きは、数量が89.1% (5万2千箱)、金額が8.0% (307万円) とともに減少した。

⑦(株)葛西花き

総取扱金額は59億206万4千円で、前年比10.0% (5億3694万2千円)

の増加となった。

部類別では、最も伸びたのが切枝で数量が前年比282.4% (157万1千束)、金額が32.8% (6544万1千円)の増加であった。そのほか、鉢花、観葉植物、観賞樹、苗物は数量がそれぞれ27.9% (45万8千鉢)、38.8% (18万6千鉢)、10.2% (1万2千鉢)、64.3% (1万6千箱)といずれも二桁の増加、金額も13.4% (6656万3千円)、11.4% (2420万9千円)、10.4% (634万5千円)、71.8% (4561万3千円)と大幅に増加した。切花も数量が5.1% (348万8千本)、金額で9.8% (3億8269万2千円)増加した。しかし、切葉とらん鉢は数量がそれぞれ2.1% (11万2千枚)、9.8% (7千鉢)増加したものの、金額が0.7% (95万6千円)、0.4% (75万8千円)と若干ながら減少した。また、その他花きは数量で69.1% (52万箱)、金額で75.1% (5220万8千円)と大きく減少した。

⑧ (株) 江戸川花き

総取扱金額は47億4170万2千円で、前年比5.6% (2億4969万8千円)の増加となった。

部類別では、その他花きが数量で131.8% (6千箱)、金額で153.8% (3951万3千円)と大きく増加した。また、観賞樹と苗物でも数量で11.9% (4万8千鉢)、20.2% (6万5千箱)、金額でも14.2% (3491万2千円)、22.3% (1億507万円)とともに大幅な増加が見られた。また、切葉、切枝、鉢花、観葉植物も数量で10.2% (33万9千枚)、13.2% (9万8千束)、5.7% (20万8千鉢)、6.2% (4万4千鉢)とそれぞれ増加し、金額で16.7% (1235万9千円)、4.4% (571万円)、4.0% (4670万8千円)、5.8% (2187万7千円)増加した。切花は数量で0.5% (13万7千本)減少したものの、金額は1.8% (2645万9千円)増加した。しかし、らん鉢は数量で16.0% (4万9千鉢)、金額で8.1% (4291万1千円)ともに減少した。

2 月別市況

1月

【切花】

取扱数量は前月比18.5%減、前年比8.7%増、平均価格は前月比7.9%安、前年比16.7%高となった。

入荷は、12月と年明けの天候に恵まれて前半は潤沢であったが、後半は寒さが強まり少なめとなった。市況は、昨年と異なり初市から盛況で、一月を通して堅調な相場となった。その原因として、菊類の需要が旺盛であったことが挙げられる。主力商品別では、菊類は葬祭需要が活発なため堅調、カーネーション、スイトピー及びチューリップは中旬を中心に強保合となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比24.5%減、前年比14.8%増、平均価格は前月比42.7%安、前年比3.9%安となった。

入荷は、12月に引き続き前年比15%前後の伸びを示すなど潤沢であった。市況は、前半は鉢花を中心に堅調であったものの、後半に入り需要が一服するとだぶつき感から反落した。主力商品別では、プリムラ類は前半堅調、後半反落、デンドロビウムは一月を通して小高い相場となった。

2月

【切花】

取扱数量は前月比5.1%増、前年比7.8%増、平均価格は前月比11.4%安、前年比3.1%安となった。

入荷は、前半、先月末からの冷え込みにより少なめであったが、天候の回復とともに増加し全体的には潤沢となった。市況は、上旬は先月の堅調相場を引きずっていたが、中旬から高値疲れのためか引き合い弱くなり小安い相場となった。主力商品別では、菊類は先月に引き続き高値で推移したが、中旬以降弱保合。入荷が本格化したスイトピー、チューリップは潤沢潤沢に出回ったが、相場は下げず、一月を通して中高値で推移した。

【鉢物】

取扱数量は前月比7.9%増、前年比1.5%増、平均価格は前月比3.1%安、前年比4.6%高となった。

入荷は例年並。市況は、前半は鉢花・苗物を中心に強めの相場であったものの、後半低迷。一方、らん類は品評会が多数行われたためか、一月を通して好取引であった。主力商品別では、プリムラ類は入荷が終わりに近づき品質が落ちるとともに、相場も下がった。デンドロビウムは、らん類の中でも特に買いが集中し、堅調な相場となった。

3月

【切花】

取扱数量は前月比57.2%増、前年比2.6%増、平均価格は前月比3.2%高、前年比3.2%高となった。

入荷は、暖冬の影響により、前進開花で集中出荷されるなど、ばらつきが見られたが、総じて平年並となった。市況は、入荷のばらつき、暖冬により品質低下があったものの、卒業式等のイベント需要及び春の彼岸需要に支えられ、保合の相場となった。主力商品別では、菊類は彼岸の直前2日間に入荷が集中したものの、値動きよく保合。スイトピーは、中旬以降暖かさが増すにつれて品質低下が目立ち、軟調となった。

【鉢物】

取扱数量は前年比44.3%増、前年比8.2%増、平均価格は前月比0.2%安、前年比2.2%安となった。

入荷は、切花と同様、暖冬の影響により前半に集中し、卒業式等の需要期に品不足となるなど、アンバランスであった。市況は、品目によってまちまちの相場となった。主力商品別では、プリムラ類は需要期に品不足となるも今一つの相場。ファレノプシスは、卒業式・婚礼需要により良品を中心に引き合い強き堅調な相場となった。

4月

【切花】

取扱数量は前月比31.9%減、前年比0.5%減、平均価格は前月比6.2%安、前年比7.7%安となった。

入荷は、繁忙期である3月を終え一段落するも、量的には順調。市況は、上旬に入学・入社式需要により値動きがある時期であり、入荷も順調であったが、天候不順のため小売も動きが鈍く、特に花持ちの悪い品目が低迷し、保合の相場となった。主力商品別では、カーネーションが、前半は引き合い弱く弱保合も、下旬から母の日向けの需要が高まり強含みの相場。輪菊は、潤沢感から低調な相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比12.2%増、前年比11.8%増、平均価格は前月比8.1%高、前年比9.5%安となった。

潤沢な入荷に加え、切花と同様に、前半は天候不順の影響により荷動きが悪く弱保合の相場であったが、後半、天候回復と母の日需要及びガーデニングブームにより相場は上向きとなった。主力商品別では、バゴニア類が前半弱保合も後半から堅調。ファレノプシスは、上旬は入学・入社式需要により引き合いが強かったものの、それ以後は軟調な相場となった。

5月

【切花】

取扱数量は前月比4.2%増、前年比5.1%減、平均価格は前月比11.7%高、前年比9.8%高となった。

入荷は前月までの前進開花のため、5月としては若干少なめとなった。市況は、母の日を境に好調から低迷へと転じる例年の流れが見られたものの、品薄感が下支えとなり月末には相場回復した。主力商品別では、カーネーションは母の日まで堅調、以後低迷するも月末から品薄高の相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比11.7%増、前年比21.5%増、平均価格は前月比2.3%高、前年比8.6%安となった。

5月は、母の日及び園芸植替需要により鉢物は活発に取引される月であり、本年はこれにガーデニングブームが加わったことで高取引の期待感から潤沢な入荷となった。しかし、需要を上回る入荷のため母の日以後需要の減少とともに鉢花、苗物が急落し前年単価割れの市況となった。主力商品別では、ペゴニア類は母の日を前に入荷量増大も荷動きよく保合となったが以後急落。ハイドランジアは品種により価格差があったものの、潤沢入荷のため総じて弱保合。

6月

【切花】

取扱数量は前月比8.2%減、前年比13.3%増、平均価格は前月比11.9%安、前年比3.3%安となった。

入荷は、暖冬の影響により高冷地ものの出荷が例年より早まったため潤沢となった。市況は、需要が追いつかないところに、台風、梅雨入り後の猛暑の影響を受け軟調相場となった。主要商品別では、菊類は潤沢な入荷により弱保合。ひまわりは昨年の1.5倍弱の入荷であったが季節商材として人気が高く、比較的安定した相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比38.1%減、前年比6.5%減、平均価格は前月比5.4%高、前年比2.6%高となった。

入荷は、多めの入荷となった苗物を除いて若干少なめとなった。市況は、暑さが増すとともに品傷みを懸念して鉢花が買い控えられ一方、らん類は業務用として好調に取引されるなどまちまちであった。主要商品別では、ペゴニア類は気温の上昇とともにじり安。ファレノブシスはギフト用として堅調な相場となった。

7月

【切花】

取扱数量は前月比4.8%増、前年比5.9%減、平均価格は前月比5.1%安、前年比8.2%安となった。

入荷は、1週間から10日の前進開花で昨年同様多めとなった。市況は、前半は潤沢入荷に加え猛暑による品傷みを警戒した買い控えのため低迷。後半は一転仏花を中心に相場が上がるが、猛暑、長雨の影響により再び低迷。全体的に軟調相場となった。主要商品別では、菊類、カーネーションはお盆前後に中値相場になるものの総じて軟調。ひまわりは品質による価格差があったが季節商材として依然人気が高く比較的安定した相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比10.6%減、前年比17.6%増、平均価格は前月比2.1%高、前年比6.4%安となった。

切花と同様、潤沢入荷に加え猛暑による需要減少のため相場低迷。しかし、らん類は業務用が引き続き好調に取引され堅調相場となった。主要商品別では、ペゴニア類は猛暑により花保ち、引き合いともに悪く弱保合。ファレノブシスはギフト用として手堅い相場となった。

8月

【切花】

取扱数量は前月比0.4%減、前年比1.1%増、平均価格は前月比7.1%高、前年比13.2%高となった。

入荷は、上旬は前進開花のため多めであったが、中旬以降一転品薄状態となった。市況は、入荷の流れをそのまま反映して、前半は弱保合も中旬から品薄高となった。主要商品別では、菊類、りんどうは旧盆前までやや安めの相場であったが、以後品薄高。ひまわりは季節商材としての魅力で、強保合の相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比28.8%減、前年比2.7%増、平均価格は前月比7.9%安、前年比2.4%安となった。

入荷は昨年並であったが、猛暑により需要が低迷したため、軟調相場となった。主要商品別では、秋物の代表商品である菊類が、シーズン初めということもあり品薄気味でやや高め。ファレノブシスは少なめの入荷となったらん類の中でも安定した入荷を見せ、保合相場となった。

9月

【切花】

取扱数量は前月比19.1%増、前年比2.5%減、平均価格は前月比5.0%高、前年比18.9%高となった。

入荷は、前半は彼岸に向けた産地側の出荷調整により安定するも、彼岸以降は先月中旬からの品薄状態をそのまま引きずる形となり、やや少なめとなった。市況は、前半は残暑と彼岸に向けた集中出荷により軟調傾向も、彼岸以降盛り返し、品薄高となった。主要商品別では、菊類は全般的に不足していたため、前年同月比38%高の強保合で推移した。

【鉢物】

取扱数量は前月比49.3%増、前年比5.4%増、平均価格は前月比0.9%高、前年比5.4%高となった。

入荷は秋物商品が順調で平年並であった。市況は、上旬は残暑・台風の影響により軟調相場も、中旬から花物を中心に買い気戻り小幅高の相場となった。主要商品別では、菊類は作付けが減少したこともあり入荷減少。そのため彼岸・敬老の日には品薄高となる。ファレノプシスは、一月を通して引き合い強く好調に取引された。

10月

【切花】

取扱数量は前月比18.1%減、前年比12.4%増、平均価格は前月比22.2%高、前年比13.2%高となった。

10月は産地が高冷地から暖地へ切り替わる時期に当たるため、例年少なめの入荷となるが、本年は比較的多めの入荷となった。市況は、婚礼・宴会需要が旺盛であったこと、また全般的に天候に恵まれたことにより引き合い強く終始品薄感高で推移した。主要商品別では、菊類は品薄高。カーネーションは入荷順調であるも引き合い強く強保合の相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比19.1%増、前年比1.0%増、平均価格は前月比2.7%高、前年比2.0%高となった。

全体としては入荷、市況とともに昨年並であった。しかし、本年は鉢花、苗物が大変好調であったが反面、観葉植物が不調となるという特徴が見られた。主要商品別では、鉢花の代表であるペゴニア類、プリムラ類は、入荷順調も天候に恵まれ強保合。ポトスはポット物がまずまずであったが、冬場ということもあり総じて軟調相場となった。

11月

【切花】

取扱数量は前月比18.2%減、前年比6.4%減、平均価格は前月比20.8%安、前年比11.6%安となった。

11月も産地切り替えの端境期にあたり、入荷はやや少なめとなった。市況は、少なめの入荷にかかわらず、婚礼・宴会需要がピークを過ぎたことと大型倒産が相次ぐなど景気不透明感から末端需要が冷え込んで軟調な相場となった。主要商品別では、菊類、カーネーションは順調な入荷も需要が冷え込み軟調相場となった。

【鉢物】

取扱数量は前月比6.4%増、前年比8.3%増、平均価格は前月比18.7%高、前年比7.1%安となった。入荷は年末商品を中心に潤沢な出回りとなった。市況は例年どおり、前半は品揃え需要により中値推移も、後半から徐々にじり安となる。本年の特徴として、主要商品であるポインセチア及びシクラメンの不振が目立った。これは入荷増に加えて業務需要が冷え込んでいることによる。

12月

【切花】

取扱数量は前月比46.8%増、前年比7.2%増、平均価格は前月比18.0%増、前年比5.3%減となった。

12月は、松・千両市、クリスマス及び年末年始と一年の中で一番活況を呈す月である。入荷量は、平年並も暖冬の影響により時期にばらつきが見られた。市況は、先月からの低迷を引きずり中旬まで安値推移も、下旬から品薄感強まり堅調相場となった。主要商品別では、菊類、カーネーションは前進気味で中旬まで弱含み、以降需要の活発化とともに相場もよく動いた。松は順調な入荷で保合。千両は良品の買いが集中し強保合も、中級品以下は弱含み。

【鉢物】

取扱数量は前月比1.5%減、前年比8.1%増、平均価格は前月比27.1%増、前年比5.1%減であった。

暖冬のため、昨年同様潤沢な入荷量となった。市況は、高額商品から低価格・小型商品へのシフトが一層進んだことにより単価的に軟調相場となった。主要商品別では、シクラメン及びポインセチアは潤沢入荷もギフト向けが奮わず単価低迷。シンビジュームは低価格のものを中心に順調に取引された。